

# ほん 「本はともだち」

あたらしくなった図書室の合い言葉です。

本はいつでもみんなのそばにいます。本を手にとってページをめくったら・・・その世界にトリップ、

そして本を閉じればまたこの世界にもどってすることができます。いろいろな世界を

この場所にいながらにして旅することができるのです。

もうすぐ夏休み！！本を開いて、場所だけではなく、時間をこえた旅にでかけ

ませんか？

夏休みといえば忘れていけないのが宿題。

その中のひとつに読書感想文があります。

そんな声が聞こえてきそうです。

めんどくさいなあ。

なにかけばいいの？

読書感想文は、その名のとおり、「本をよんで感想を書く」ことです。読んで思ったことを書けば

いいだけです。

みんなが普段の生活の中で、例えば学校でものすごく楽しいことがあったら家に帰って「ねえね

え、聞いて聞いて」と、お話するでしょう。どんなに楽しかったか伝えたくて、いろいろ考えながらお

話するでしょう。話した人に同じ気持ちをもってほしいから一生懸命話すでしょう。

本を読み終わったとき、「おもしろかった！」「悲しいお話だなあ」などなど、心に何か残っている

はずです。それをさらにくわしく自分に問いかけてみてください。「なんでおもしろかったのかな？」

「悲しいのはどうして？」と考えてみるのです。

本を読んで、みんなに「こう思ったよ」ということを伝えるのが、読書感想文です。

ね、こうやって考えると特別むずかしいことではないでしょう。



ただポイントがいくつかあります。

《まず、自分が面白かったり、興味のある本を選ぶ。》

つまり・・・自分にあった本を選ぶのです。当たりまえといえば当たりまえですね。自分がなんとも

思わない本を読んでも、ちっとも楽しくないし、内容が頭に入ってきません。

図書室にある本を選んでもいいし本屋さんに行ってみるのもいいでしょう。お友達とちがっていて

もいいのです。自分が何をもしろいと思っているのか、こういうことをもっと知りたいからという気持ち

で選んでみてください。わからなかったら図書室でも相談にのりますよ。一緒に「この一冊！」を

選びましょう。では、いよいよ本を読み始めます。

《しっかり読むコツは・・・》

頭の中で映画やテレビを見るように、場面や状況を思い浮かべながら読んでみましょう。物語

だったらじぶんが監督になったつもりで。配役(キャスティング)は自分で決めていいのです。この

役だったらあの人に合いそう！なんて想像しながら読むと、よりリアルに本の内容を思い浮かべる

ことができるでしょう。

そして読み終わったら、自分の心に聞きながら、それを文章にしてみよう。

感じることはひとそれぞれ。違って当然です。うまく書こうなんて

思わなくていいのです。長くなくてもかまいません。だから書くより、

短い文章で決めたほうが、伝わりやすい場合もあります。

自分が感じたことを、感じたままに……！



ほら書けました！

